

Q.

景気の「ソフトランディング」って何ですか？

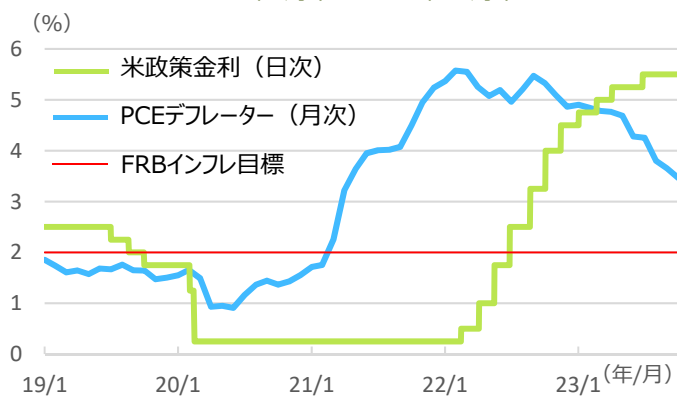
A.

元々は、軟着陸を指す言葉で、景気が緩やかに減速することを指します。これまでの急ピッチでの金融引締めに対して、米国経済が景気後退に陥らずに「ソフトランディング」できるかどうか、注目されています。

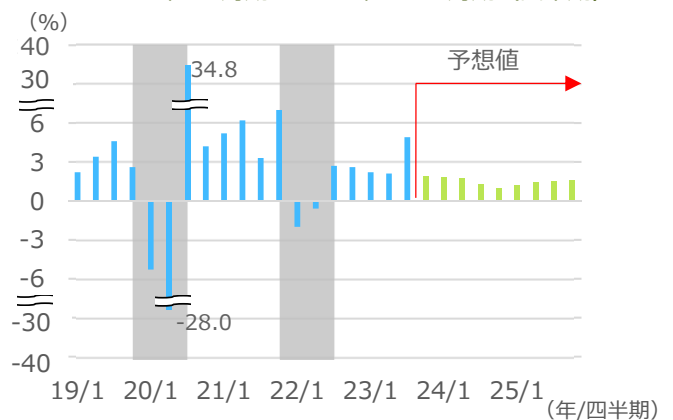
- ◆米連邦準備制度理事会（FRB）は新型コロナウイルスの拡大時期に、政策金利を引き下げて景気の下支えを図りました。その後、コロナ禍からの経済再開による需要の増加や、ロシアのウクライナ侵攻等により、世界的にインフレ率が大幅に上昇しました。これに対し、世界の主要中央銀行は行きすぎたインフレを抑制するために急ピッチで政策金利を引き上げてきました。金融政策の効果は遅れて発現することもあり、今後、景気を冷やしすぎないかが懸念されています。
- ◆FRBは2023年7月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で政策金利であるFFレートを5.25～5.50%に引き上げた後、2会合連続で政策金利を据え置いています。直近のインフレ率は鈍化しているものの、物価目標（2%）に対しては依然高い水準であるため、FRBは利上げの余地を残しています。一般に2四半期連続でマイナス成長となると、景気後退（リセッション）と言われます。これまでの政策金利の引上げにより、景気が大きく後退（ハードランディング）するのか、それとも景気後退に陥らずに緩やかに減速し、「ソフトランディング」となり景気回復へと向かうのかが注目されています。

足元の物価動向と政策金利の推移、米実質GDPの推移

〈米国の物価と政策金利の推移〉
2019年1月末～2023年10月末



〈米実質GDP成長率の推移（前期比年率）〉
2019年1-3月期～2025年10-12月期（四半期）



■ 2四半期以上連続実質成長率マイナス期をリセッションとして表示

- (注1) PCE (Personal Consumption Expenditures 個人消費支出) デフレーターは食品・エネルギーを除くコア。FRBが最も重視している物価指標。
 (注2) 米実質GDP成長率の2023年10-12月期～2025年10-12月期は三井住友DSアセットマネジメントの予想。
 (注3) 米政策金利はFFレートの上限金利。
 (出所) 米商務省、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

【重要な注意事項】

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。